

学校ホームページによる情報発信の方法に関する研究

- 開かれた学校づくりに寄与するために -

情報教育研修課 主任指導主事兼課長 難波 宏司

指導主事 佐藤 勝彦 武田 由哉 米谷 繁

はじめに

学校の情報環境整備の進展に伴い、相当数の学校がホームページを開設するようになった。学校ホームページを活用して積極的に情報発信している学校がある一方で、ホームページを開設してはいるものの、更新頻度が低く古い情報が放置されている学校も少なくない。

学校ホームページが開設され始めた初期は、情報教育の中で児童生徒の学習成果の発表の場としての役割を担うことが多かったが、近年「開かれた学校」を目指した取組や、学校の情報公開、説明責任が求められる中で、学校運営にかかわる情報発信の窓口としての役割の重要性が増してきている。学校ホームページをとおして発信される情報については、学校ホームページが開設された2000年頃には調査研究がなされていたが、近年ではあまり研究されなくなっており、学校ホームページが担う新たな役割を含めてどのように運用すべきかの研究が必要になってきている。

本研究では、県内の公立学校の学校ホームページを対象に調査を行い、学校ホームページの情報発信や運営状況の概要を把握した上で、開かれた学校づくりに寄与するために、学校ホームページが掲載すべき内容や運用方法を改善するための方策を示す。

1 調査の概要

本研究においては、県内の公立学校（神戸市立を除く）1,110校を対象に、学校ホームページの掲載内容、更新状況、運用方法等について調査を行った。調査は、学校に対するアンケート調査(調査)

表1 各調査の分析対象学校数と全学校数に占める割合

	小学校	中学校	高校	特別支援	全体
調査 : 運用状況に関するアンケート調査	198校 (31%)	72校 (27%)	128校 (81%)	24校 (69%)	422校 (38%)
調査 : 掲載内容・更新状況に関する調査	493校 (76%)	200校 (74%)	159校 (100%)	-	852校 (77%)
調査 : 閲覧状況に関する調査	151校 (23%)	59校 (22%)	134校 (84%)	-	344校 (31%)

と、インターネットに公開されているホームページの調査(調査 ・)を併用して行った。各調査において分析対象とした学校数と全学校数に対する割合を表1に示す。

(1) 県内の公立学校に対する「学校ホームページ運用状況に関するアンケート調査」(調査)

県内の公立学校のうち、兵庫県教育情報ネットワークを利用している1,073校に対して、2006年度末に「学校ホームページの

表2 「学校ホームページの運用状況に関するアンケート調査」質問項目

運用状況に関するアンケート調査」を依頼し、43%にあたる458校から回答を得た。そのうち、学校ホームページを開設している422校を分析対象とした。

アンケートは、学校ホームページの開設の有無や運用体制に関す

質問項目	
多肢選択	学校ホームページを開設していますか。
	学校ホームページは、どこかのサーバに開設していますか。
	学校ホームページは、どのような体制で運営していますか。
	学校ホームページをアップロードする際に管理職はどのように関わっていますか。
	学校ホームページの更新頻度はどの程度ですか。
自由記述	更新頻度の高いページは、どのような内容のページですか。
	学校ホームページをよく閲覧しているのは、どのような人ですか。また、その反応はどうですか。
	学校ホームページに掲載する情報を、各部署からどのように集めていますか。
	学校ホームページを効率よく運営するために工夫していることはありますか。
	学校ホームページに個人情報を掲載する際に、許諾を円滑に取るために工夫していることはありますか。
	学校ホームページを運営する上で困っていることはありますか。

る多肢選択 5 問と、運用方法の工夫等に関する自由記述 6 問からなり(表 2)、ホームページを用いて回答を回収した。

(2) 県内の公立学校ホームページの実態調査

ア 掲載内容・更新状況についての調査方法(調査)

学校ホームページの掲載内容、更新状況については、インターネットに公開されている2007年11月時点の学校ホームページについて、調査ツールを作成してデータを収集し、質的及び量的の両面から集計・分析を行った。サーバ上でプログラムを動作させてホームページを運用する仕組みであるCMSやBlogを使用している学校については、今回作成した調査ツールの機能では情報を収集することができなかったため、分析対象としなかった。質的な面については、学校ホームページに掲載されている項目の抽出・分類を行い、量的な面については、掲載されているページ数や更新頻度などを分析した。

更新状況については、ホームページを人の目で見ただけでは、更新された日付を知ることができないため、調査ツールを使用して、サーバに記録された最終更新日を収集することにより分析を行った。ただし、この日付はサーバにアップロードされた日付であるため、市町合併等でサーバを移転した場合には、新しいサーバにアップロードされた日付となり、実際にページの内容とは異なる場合を含んでいる。

イ 閲覧状況についての調査方法(調査)

どのようなページが利用者からよく閲覧されているかという閲覧状況についての調査は、アクセスログ(サーバに記録された閲覧履歴)を見ることが可能な、当所のサーバにホームページを設置している学校を対象に実施した。2007年9月1日～12月31日の4ヶ月間に、教育情報ネットワーク及び県の行政ネットワークの外からアクセスの対象となった学校について集計を行い、傾向を分析した。

2 調査結果の分析

(1) 学校ホームページ開設状況

県内の公立学校(神戸市立を除く)の学校ホームページ開設状況(2007年3月20日現在)を表3に示す。各校種とも80%以上の学校がホームページを開設している。高等学校及び特別支援学校については、90%を超える高い割合となっている。

調査の分析では、それぞれの学校ホームページの総ページ数は、1ページ～約2,000ページまで広い幅で分布している。

総ページ数の分布を校種別に集計した結果を、図1に示す。

小・中学校では11ページ～50ページで構成されている学校が最も多く、ほぼ半数を占め、高等学校では101ページ～500ページの学校が最も多いことがわかる。累積した学校数の割合を見ると、高等学校では100ページを超える学校がほぼ半数を占めるのに対し、小・中学校では3割程度

表3 県内の学校ホームページ開設状況

校種	開設校数(割合)
小学校	530校(81%)
中学校	218校(80%)
高等学校	166校(97%)
特別支援学校	32校(91%)
中等教育学校	1校(100%)
全体	947校(84%)

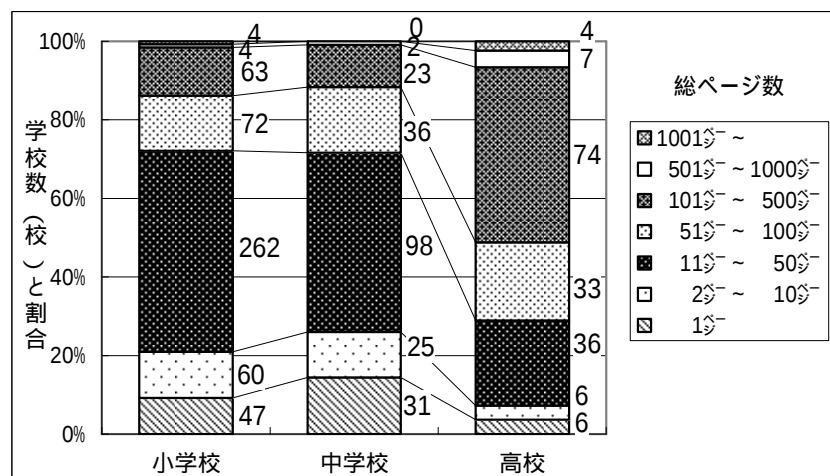


図1 各学校の総ページ数の分布

にとどまっていることがわかる。全体的な傾向としては、高等学校が他の校種に比べてページ数が多い傾向が見られる。1ページだけで構成されている学校も全体で80校程度あり、これらの学校は形の上ではホームページを開設しているものの、実際には機能していないと思われる。

総ページ数の多い学校では、定期的に掲載しているトピックスや部活動及び行事紹介などに多くのページをあてて掲載している。また、高等学校では、教育課程や学科紹介の中にシラバス等の形で開講科目の紹介を掲載している場合、科目数に応じてページ数が増えるために、総ページ数が多くなっている。

(2) 「学校ホームページ運用状況に関するアンケート調査」の分析

「学校ホームページの運用状況に関するアンケート調査」(調査)の422校について分析を行った。

ア 学校ホームページ設置サーバの内訳

「学校ホームページは、どこのサーバに開設していますか」との問いに対する回答を図2に示す。94%の学校が、当所のサーバもしくは市町教育委員会が指定するサーバに学校ホームページを開設しており、学校ホームページを使用した情報発信の教育委員会による整備は、ほぼ完了していることがわかる。

イ 学校ホームページ運営体制

学校ホームページの運営をどのような体制で行っているかを調査した。誰が学校ホームページの運営を行っているかを尋ねた設問の結果を図3に示す。4つの選択肢のうちはじめの2つには「(校務分掌上の位置づけは曖昧)」という但し書きをつけて調査を行った。その結果、73%の学校では校務分掌上に位置づけて、学校ホームページの運営を行っていることがわかる。また、1名だけで運営を行っている学校が51%あり、学校ホームページの組織的な運用はかなり進んできてはいるものの、個人の技量に依存する部分もあり、組織的に機能しているとまではいえない状況がわかる。

しかしながら、「学校ホームページをアップロードする際に管理職はどのように関わっていますか」という設問に対する回答(図4)にもあらわれているように、6割以上の学校で、アップロード前に管理職が内容の確認を行っており、事後の確認まで含めると8割以上の学校で管理職が学校ホームページの運営に関与していることから、学校ホームページに対する管理職の関心が高いことがうかがえる。

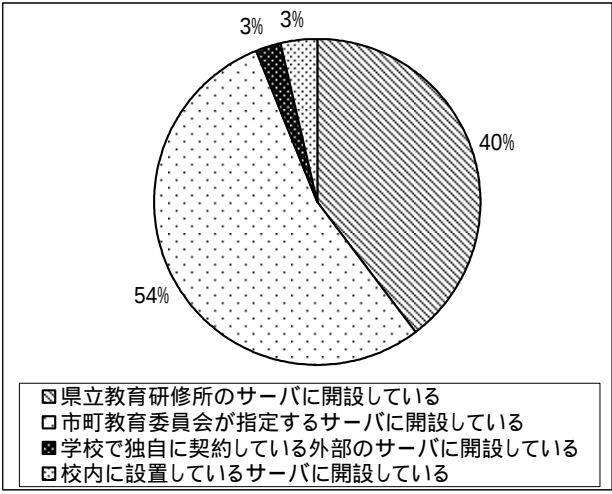


図2 学校ホームページ設置サーバの内訳

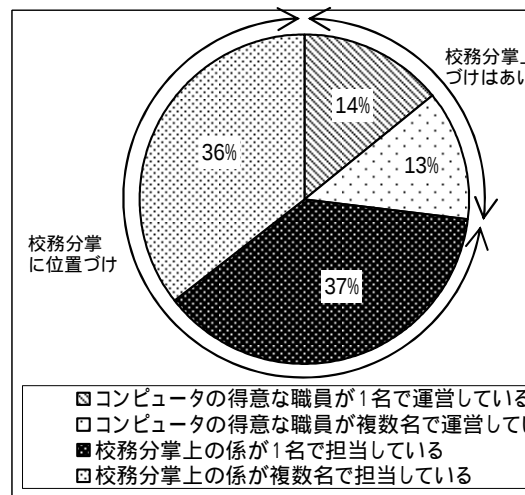


図3 学校ホームページ担当者

表4 どのような人が閲覧しているか(複数回答)

	学校数(校)と割合			
	小学校	中学校	高校	全体
把握していない	63(32%)	28(39%)	30(23%)	135(32%)
保護者	113(57%)	34(48%)	81(63%)	242(57%)
地域の人	25(13%)	13(18%)	10(8%)	50(12%)
卒業生	6(3%)	4(6%)	23(18%)	39(9%)
中学生	-	-	40(31%)	-
他校の教職員等	5(3%)	2(3%)	5(4%)	13(3%)

原則としてアップロード前に文書による決裁を行っている

図4 管理職の関わり方

ウ 閲覧者の把握について

「学校ホームページをよく閲覧しているのは、どのような人ですか」という自由記述形式の設問に対する回答を表4に示す。「把握していない」という趣旨の回答が全体では32%(135校)あり、特に中学校で39%と高い割合となっている。各校種とも「保護者」をあげている学校が半数程度あり、現在の学校ホームページが閲覧者として、主に保護者を想定していることがわかる。「地域の人」をあげる割合は、中学校が18%と最も高くなっており、トライやる・ウィークなど地域と関わりを持つ事業の影響が考えられる。高等学校では、「中学生」を対象にした情報発信を行っている学校が多く、他の校種とは傾向が異なることがわかる。

エ 個人情報の掲載に関して

顔写真等の児童生徒の個人情報を、どの程度まで学校ホームページに掲載すべきかが、従来よりホームページ担当者を対象とした研修講座等でも検討事項となっていた。「学校ホームページに個人情報を掲載する際に、許諾を円滑に取るために工夫していることはありますか。」という自由記述形式の設問に対する回答を表5に示す。「特になし、無回答」が35%あり、個人情報の扱いに対してあまり配慮されていない学校が多いことがわかる。また、「個人情報は掲載していない」「個人を特定できないようにして掲載している」という回答が合わせて34%あり、個人情報を掲載しないことで掲載のための手続きを避けている傾向が見られる。その一方で、小・中学校では、ともに14%の学校が年度当初に一括して許諾を得る方法をとっており、特に小学校では

表5 個人情報を掲載する際の許諾の取り方の工夫

	学校数(校)と割合			
	小学校	中学校	高校	全体
個人情報は掲載していない	41(21%)	17(24%)	37(29%)	103(24%)
個人を特定できないようにして掲載	22(11%)	2(3%)	18(14%)	42(10%)
年度当初に一括して許諾依頼	16(8%)	9(13%)	5(4%)	38(9%)
年度当初に一括して承諾書をもらう	12(6%)	1(1%)	0(0%)	14(3%)
個別に承諾書をもらう	11(6%)	1(1%)	1(1%)	17(4%)
パスワード付きのページに掲載	2(1%)	0(0%)	1(1%)	3(1%)
特になし、無回答	69(35%)	32(45%)	41(32%)	149(35%)

「個別に承諾書をもらう」という学校も6%あり、積極的に個人情報も含めた情報発信を行っている学校もある。高校においては、そのような取組はあまり見られない。

オ 学校ホームページ運営上の困難点に関して

「学校ホームページを運営する上で困っていることはありますか。」という自由記述形式の設問に対する回答では、更新頻度を上げることの困難さに関するものが最も多く見られる。「更新できる技術をもつ職員に限られる」「更新する時間がとれない」などの人的時間的な課題が多くあげられた。また、組織的に運営することの困難さに関する回答も多く、「掲載する情報が、各部署から集まりにくい」「特定の職員に負担が集中している」「担当者が異動した後の引き継ぎが不安」といった趣旨の記述も見られる。

アンケートでは、効率よく運営するための工夫についても尋ねた。「ホームページに掲載する原稿を各部署から集めて管理職の決裁を受ける内容面の担当者と、ページ作成やアップロードを行う技術面の担当者を分けている」「ホームページの雛型を提供して簡単にページを作成できるようにすることで、各部署が自分の所管するページを分担して作成している」といった人的な工夫や、「写真等をファイルサーバに集め共有している」「技術がなくとも更新できるようにCMSを導入している」といった技術的な工夫に取り組み始めている学校もある。

(3) ホームページの掲載内容に関する分析

ア 掲載内容の分類

学校ホームページに掲載されている内容は、多種多様にわたる。開かれた学校づくりの観点でホームページの改善を行うためには、それぞれの掲載内容が誰に対してどのような目的で発信されるのかを整理し、目的を明確にして焦点化しなければならない。そのためには、わかりやすい形で掲載内容が分類されていることが有効であると考え、掲載内容の分類方法の検討を行った。

学校ホームページの分類方法のひとつとして、全国小学校ホームページコンテスト(J-KIDS大賞)の選考基準及び採点表が公表されている。この選考基準は、全国の学校ホームページについての豊福晋平(2004)の調査¹⁾をもとに作成されており、学校ホームページにどのような情報が求められているかの基準のひとつとして参考にすることができる。この基準では、掲載内容を図5に示すマトリクスに分類している。「マトリクスの横軸には、組織(O)・教育活動(T)・学校生活(S)の順に、受け持つ情報の範囲を基準にカテゴリを配置し、マトリクスの縦軸には、広報説明(P)・拠点参加協働(C)・蓄積(A)の順に、学校ホームページの担う役割を基準にカテゴリを配置」¹⁾している。

J-KIDS大賞2006評定基準		組織 (Organization)	教育活動 (Teaching&Learning)	学校生活 (School Life)
		学校組織に関わる情報 学校管理者・教職員・上部組織	正課教育活動に関わる情報 授業者と学習者(児童)	課外学校生活全般に関わる情報 保護者・地域等多様な参加者
広報説明 (Public Relations・Accountabilities)	「つたえる」 企画・計画 取り決め・ルール 説明責任に基づく報告	学校概要 学校正式名称・住所・電話番号 校長氏名 メールアドレス 最終更新日 学校統計(学年児童数) 学校施設紹介	教育方針・教育計画 学校教育目標・経営理念・指導方針 年間指導計画(シラバス) 各教科年間総授業時数 時間割・日課表	学校生活(手続等) 行事予定 緊急時の対応方法 FAQ(質問と答え)・諸手続解説 給食献立・給食だより(予定)
		学校財務 学校財務	教育研究計画 研究計画・研究企画案・一覧構造	学校生活(紹介) 学校生活・行事紹介 児童会委員会紹介 クラブ・課外活動紹介
		学校評価 学校評価	教育評価 評価基準・評価方法・通知票の解	
		学校評価 学校評価	学習活動紹介 学習活動紹介	
拠点・参加協働 (Node&Links・Collaboration)	「かかわる・ひろげる」 組織構成 多様な参加者 具体的活動紹介 イベント告知 フィードバック 拠点からの発展	HP制作体制 運営方針・制作運営体制	HP制作参加(児童) 児童によるページ構成	利用者からのフィードバック 学校全体・HPに関する感想意見 多様な利用者に向けた情報
		教職員の教育姿勢・信条 校長の挨拶 感想、コラム・エッセイ等	児童からのフィードバック 教育活動・学校生活に対する感想	PTA組織構成 PTA活動・ボランティア・地域連携記録 PTAだより PTA・地域活動機関へのリンク 卒業生向け・同窓会情報
		教職員・組織体制 教職員名簿 校務分掌・組織体制図 文責の表示	学習活動記録 学習活動記録	
		関連組織情報 アクセスマップ・交通手段 学区・地域(校外)紹介 教育関連組織へのリンク	学校行事・総合学習 修学旅行運動会記録 総合学習・プロジェクトページ等 学習教材へのリンク	
蓄積(Archive)	「まとめる・のこす」 結果記録 成果 蓄積 コンテンツ 継承	学校の歴史と記憶・シンボル 沿革・学校の歴史 表彰・受賞記録等 校歌 校章	教育学習成果 児童制作コンテンツ・作品 教育研究成果報告 児童会委員会記録 クラブ・課外活動記録	学校生活記録 学校ニュース・出来事記録 給食日記(記録) 広報誌・印刷配布物 学校だより 学年・学級通信 図書だより 保健だより
		組織リソース コラム・エッセイ等 学校独自のコンテンツ	教育関連リソース 児童学習教材・資料 学習プロジェクト	
機能(Functions)	ホームページの 機能的側面	親しみやすさ・使いやすさ タイトルタグに学校名称 サイト内検索・サイトマップ RSSの配信	・各項目の配点は0.5点から3点。100点満点となるように構成されています。 ・県代表校優秀校選考は、総合評価のほか、最終更新日や更新頻度が加味され決定されます。	
		多様な利用者・多様なコンテンツ 低学年児童への配慮 携帯電話用ページ		
		更新頻度 更新頻度		
		双方向性 ウェブログ・電子掲示板・オンライン アンケート・ゲストブックなど		

J-KIDS大賞2006 選考基準²⁾より

図5 先行研究における学校ホームページの掲載内容の分類

この基準表は、客観性の高さや配点の妥当性などコンクールの選考基準としての要件や、小学校に特化した部分があり、ホームページ改善のための指標を目的とした本研究とはねらいが異なる部分がある。そこで、先行研究としてこの分類を参考にしつつ、学校評価結果の公開等新たな役割や、運営方法の改善のための資料としての要素も加味して、収集した県内の公立学校ホームページの掲載内容の分類を行った。本研究で作成した分類図を図6に示す。また、県内の公立学校ホームページの概要を見るための資料として、各分類の

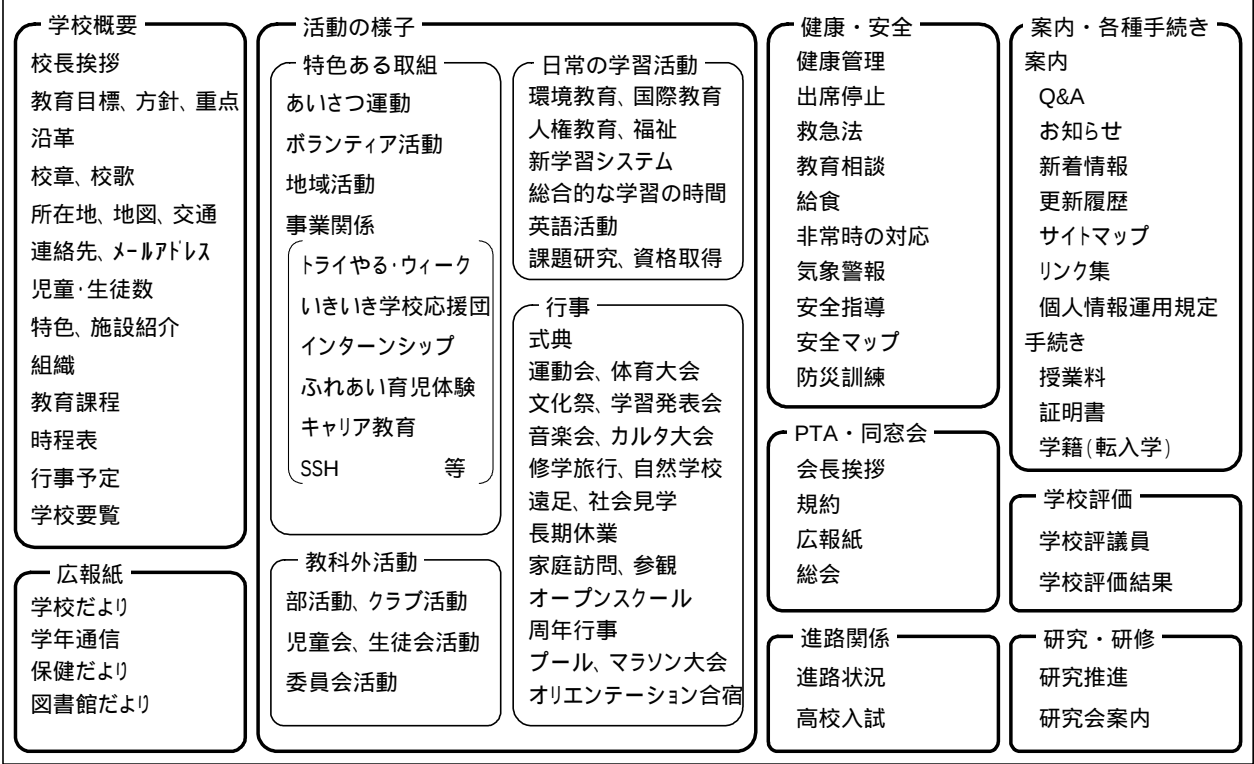


図6 本県学校ホームページの掲載内容の分類

掲載内容が全調査対象ページ数(44,088ページ)に占める割合を表6に示す。

それぞれのグループの内容と特徴について、以下に述べる。

イ 「学校概要」に関する内容と分析

教育目標や沿革など、学校要覧に掲載されているような、学校の基本的な情報を、「学校概要」に関する内容としてグループ化した。このグループには、学校の情報公開の観点から、最新の情報を必ず載せておく必要のある項目が多く含まれており、自校ホームページを点検する際のポイントとなるグループである。

「教育目標」「沿革」「在籍児童生徒数」「行事予定」「周辺地図」「校歌」「校長のこたば」などが、

多くの学校で共通して掲載されており、全体の12.2%のページ数を占めている。複数の項目を1つのページにまとめて掲載している学校も多く、まとめ方は学校により異なるが、校種による特徴は見られなかった。これらの基本的な内容に10ページ程度をあてるのが標

表6 本県学校ホームページの掲載内容の割合

内容の分類		小学校	中学校	高校	全体
学校概要		11.8%	16.6%	11.0%	12.2%
案内手続		4.6%	4.2%	7.0%	5.5%
活動の様子	活動全般	27.5%	8.8%	6.5%	16.1%
	特色ある取組	0.6%	7.1%	2.4%	2.3%
	学習活動	8.1%	4.1%	11.5%	8.9%
	行事	23.7%	21.2%	25.4%	24.0%
	教科外活動	2.7%	18.8%	18.8%	11.7%
学校評価		0.0%	0.5%	0.3%	0.2%
健康安全		6.6%	2.3%	2.1%	4.1%
研究・研修		1.2%	0.5%	0.1%	0.7%
進路関係		0.0%	0.7%	4.4%	1.9%
広報紙		11.9%	12.7%	8.2%	10.5%
PTA・同窓会		1.2%	2.6%	2.1%	1.8%
分析対象ページ数		- 5019,362	6,782	17,944	44,088

準的な構成となっている。「学校概要」に関する項目だけで、ホームページが完結している学校も見られる。高等学校の特徴として、教育課程表を掲載していることがあげられる。学校ごとに教育課程の異なる高等学校においては、必須の項目といえる。

学校による差が大きい項目としては、「校長のことば」に関する項目があげられる。校長挨拶として1ページのみ掲載している学校が多いが、複数ページをあてて校長自らが日常的に情報発信を行っている学校もある。

ウ 「活動の様子」に関する内容と分析

学校ホームページには、行事や日常の学習活動の様子、学習成果などが、数多く掲載されており、「活動の様子」に関する内容としてグループ化した。県内の学校においても、全体の63%のページ数が、このグループの内容に分類される。運営方法を検討する際の目安として、このグループをさらに「特色ある取組」「日常の学習活動」「行事」「教科外活動」の小グループに分類した。活動の様子を伝えるページの構成方法は、学年単位でまとめている学校、行事予定表を目次としてまとめている学校、トピックスとして日記風にまとめている学校など多様で、この小グループに分類できないページも多い。分類の難しいページを表6では「活動全般」として集計している。

「活動の様子」に関する内容は、必ずしも掲載しなければならない情報ではないが、学校の教育活動の様子を伝える役割を担っており、学校が誰に対して何を伝えたいのかを考慮し精選する必要がある。

「あいさつ運動」や「ボランティア活動」など、各学校が重点を置く取組が多く掲載されており、また「いきいき学校応援団」や「高校生就業体験事業」など、校外の人と関わりをもつ県の事業に関する内容も見られる。

校種によって特徴のある掲載内容もある。小学校では、長期休業に関する情報が他の校種に比べ多く掲載されており、中学校では「トライやる・ウィーク」に関する内容が掲載されている。中学校、高等学校では、部活動に関するページが多く掲載されている。特に高等学校では、総ページ数の大部分を部活動関係のページが占めている学校もある。専門学科を置く高等学校では、学科単位でページを構成する方法や、資格取得や課題研究に関するページなどに特徴が見られる。

活動の様子を伝えるページには、写真を含めて多くの画像ファイルが使われている。使用されている画像ファイル数をみると、0枚の学校から1万枚近く使用している学校まで幅広く分布している。各校種とも半数近くの学校が100枚以上の画像ファイルを使っている。特に高等学校では、500枚以上使用している学校が38%、100枚以上使用している学校が80%と、非常に多くの画像ファイルを使用している。画像の使用は、児童生徒の個人情報の取り扱いの問題とも関係するため、どの程度画像を使用するかは運営方法とも合わせて検討する必要がある。

エ 「健康・安全」に関する内容と分析

保健室からのお知らせや教育相談などの健康に関する情報と、非常時の対応や安全マップ、防災訓練の様子など安全に関する情報を、「健康・安全」に関する内容としてグループ化した。児童生徒の健康管理や安全に関する取組は家庭との連携が重要であり、ホームページを通じて情報提供や協力要請をすることが有効であると考えられる。また近年、地域と協力した子どもたちの安全を守る取組の重要性が増しており、そのための窓口としてホームページの担う役割は大きいと考え、独立したグループとして分類した。

県内の学校ホームページにも、健康や安全に関する情報を掲載している学校は多く見られるが、保健室のページの中にあたり、行事の様子の中にあたりするなど、散在している学校が多い。家庭や地域との連携を考えた場合、トップページに近い階層にまとめて掲載することが望ましいと考える。

オ 「案内・各種手続き」に関する内容と分析

新着情報や更新履歴、お知らせ、サイトマップ、リンク集など、ホームページ自体に関する案内と、証明書の発行や授業料に関する手続きを、「案内・各種手続き」に関する内容としてグループ化した。このグル

ープの内容は、ホームページを閲覧しようとする人の利便性を向上させる役割を担っている。取組の進んだ学校では、ホームページの運用ガイドラインや、個人情報の取り扱いに関する情報も掲載されている。

カ 「広報紙」に関する内容と分析

学校だより、学年通信、保健だより、図書館だよりなどの広報紙を、「広報紙」に関する内容としてグループ化した。県内の学校では、全体の10.5%のページ数が広報紙関係のページである。紙で配付しているものをそのままPDF形式で掲載している学校もあれば、ホームページの形式に作り直して掲載している学校、ホームページ用に別途作成している学校もある。

運用状況に関するアンケート調査においても、効率よく運営するための工夫として、広報紙の内容をそのままホームページに掲載する方法や、広報紙作成のために各部署から集めた文章や写真を使ってホームページを作成する方法をあげている学校がある。広報紙作成は、学校の情報発信を組織的に実施している事例であり、ホームページの運用体制見直しの際には、参考にできる要素が多いと考えられる。

キ その他の内容

上記以外に学校ホームページに掲載されている内容を、「PTA・同窓会」「学校評価」「研究・研修」「進路関係」の4つの分類にグループ化した。学校教育法の改正により、学校評価結果の公表が義務付けられた。本県においても学校評価に関する情報を掲載する学校が、高等学校を中心に増えてきている。中学校では、学校ホームページの総ページ数が少ないため、相対的に他校種よりも割合が大きくなっている。今後、公表手段として学校ホームページを活用することが考えられるため、独立したグループとして分類した。教職員による研究推進の概要や研究会の案内、研修会の報告などを、「研究・研修」に関する内容としてグループ化した。このグループの項目は、小学校で多く掲載されているが、中学校・高等学校ではあまり見られない。高等学校に特徴的なグループとして、卒業後の進路実績と高校入試に関する情報を「進路関係」の内容としてグループ化した。このグループには中学生やその保護者を対象にした内容となっているものが多い。

(4) ホームページの運用に関する分析

学校ホームページの更新状況について、調査・分析を行った(調査)。各ページの最終更新日を学校ごとに集計し更新時期の分布を分析した。ただし、この日付はサーバにアップロードされた日付であるため、市町合併等でサーバを移転した場合には、新しいサーバにアップロードされた日付となり実際に作成された日とは異なっている場合がある。

ア ページの新しさに関する分析

今年度更新されたページの割合の分布を表7に示す。小・中学校ではほぼ半数、高等学校で約3分の1の学校で、今年度更新されたページが100%を占めている。学校数の割合の累計を見ると、各校種とも6～7割の学校で、今年度更新されたページの割合が40%を超えている。また、2004年度以前のページが全く残っていない学校も7～8割程度あり、大部分の学

表7 2007年度に更新されたページの割合の分布

割合	学校数(校)と割合			学校数の割合の累計		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
100%	214(43%)	79(40%)	56(34%)	43%	40%	34%
81%～99%	53(11%)	20(10%)	21(13%)	54%	50%	46%
61%～80%	44(9%)	20(10%)	20(12%)	63%	60%	58%
41%～60%	42(9%)	11(6%)	20(12%)	72%	65%	70%
21%～40%	26(5%)	11(6%)	22(13%)	77%	71%	84%
1%～20%	31(6%)	20(10%)	23(14%)	83%	81%	98%
0%	83(17%)	39(20%)	4(2%)	100%	100%	100%

校が新しい情報を発信できている様子が見られる。学校毎の総ページ数と、その内2007年度に更新されたページ数の割合の間にはほとんど関係は見られず、ページ数の多少は更新の困難さの要因とはなっていない。

イ 更新頻度に関する分析

「学校ホームページ運用状況に関するアンケート調査」(調査)での更新頻度についての設問に対する回

答を、図7に示す。半数を超える学校から、「月に1～2回更新している」という回答が得られた。「ほとんど毎日更新している」と答えた学校が3%ある一方で、7%の学校は「ほとんど更新していない」と答えており、更新頻度のばらつきが大きいことがわかる。この傾向は、全国調査³⁾の結果とほぼ一致している。

上記アンケートによる調査と合わせて、公開されているページの更新日付を学校別、月別に集計し、更新の行われた月で整理することにより、更新頻度の分析を行った。月数が多い学校ほど頻繁に更新が行われていることを示している。この方法では、同じページが毎月頻繁に更新されていた場合には、最後に更新された日付しか残らないため、正確に更新頻度を表わさないが、おおまかな傾向を見ることはできた。小・中学校では、更新のあった月数が1～2の学校が半数を占めており、短い期間に集中的に全面改定に近い更新が行われていることがわかる。それに対して、高等学校では、更新のあった月がほぼ偏りなく分散しており、特定のページを書き換えているだけではなく、更新されたページが残されている様子が見える。

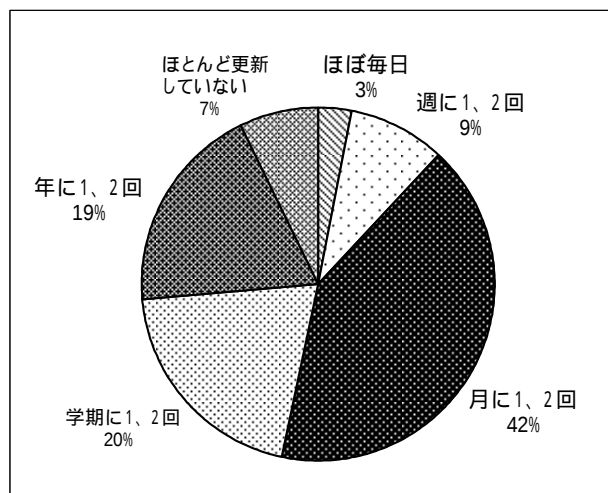


図7 学校ホームページの更新頻度

ウ 閲覧状況に関する分析

どのようなページがよく閲覧されているかを調べるために、アクセスログの解析を行い閲覧回数を分析した(調査)。2007年9月1日～12月31日の4ヶ月間にそれぞれのページが閲覧された回数の合計は、多い学校で延べ約31万回(約2500回/日)、少ない学校で延べ約1万回(約80回/日)と大きな開きがあった。学校ごとの1日当たりの平均閲覧回数の分布を図8に示す。1日平均500回以上の学校は全体の20%であり、大部分の学校は500回未満の閲覧状況となっている。

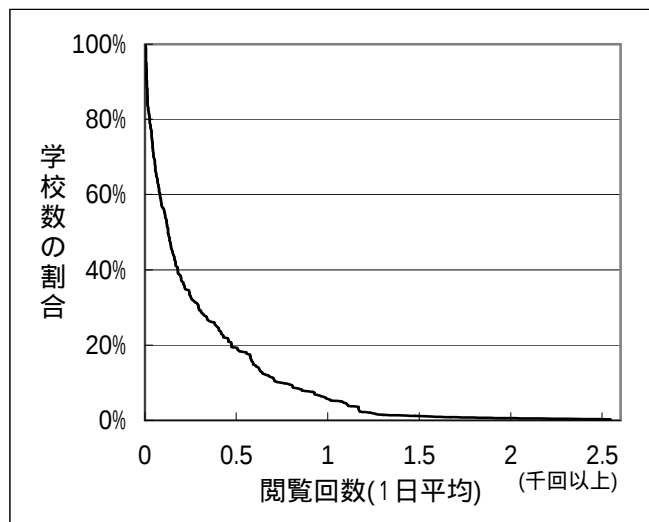


図8 閲覧回数の分布

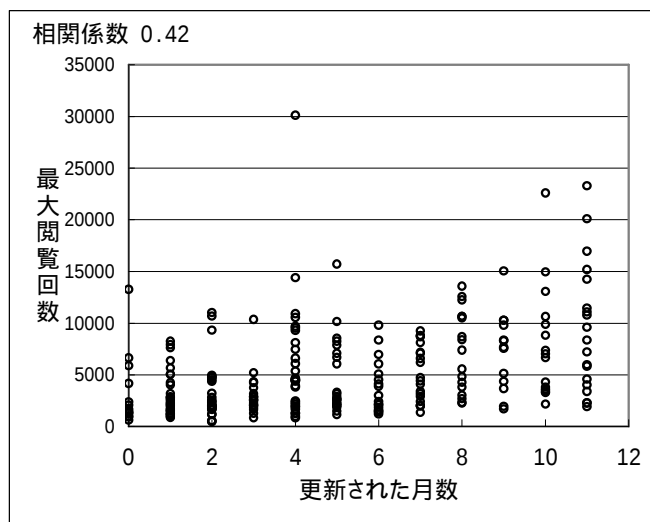


図9 更新頻度と閲覧回数の関係

次に、更新頻度と閲覧回数の関係について調べた。今年度更新されたページ数と、各学校で最も多く閲覧されたページの閲覧回数(最大閲覧数)との間には、ほとんど関係は見られない。更新された月数と、最大閲覧回数との間には、図9に示すように相関係数0.42の緩やかな相関があり、更新された月数が多い方が閲覧回数が増える傾向が見られる。最も閲覧回数の多い学校は、ほぼ毎日2～3ページを更新して新しい情報を掲載しており、学校の総ページ数は1,200ページに及んでいる。他の閲覧回数が上位の学校についても、ほぼ毎月ホームページの更新が行われている。それに対して最も閲覧回数の少ない学校は、今年に入って2

ページ数よりも更新回数の方が、閲覧回数への影響が大きい傾向が見られる。

以上の調査結果、アンケート結果の分析を踏まえ、開かれた学校づくりに寄与するために、学校ホームページが掲載すべき内容や運用方法を改善するための方策について考察を行う。学校ホームページ改善の方策のひとつとして、特にホームページ作成を得意とする教職員が少数しかない学校が、学校ホームページの改善に取り組む場合に有効と考えられる方策に焦点をあてて提案を行う。

学校ホームページは、学校で直接顔を合わすことのできる人だけでなく、外部の人にも開かれた情報発信の手段である。保護者に学校の様子を知ってもらう目的だけでなく、外部人材の協力を得て、学校教育を充実させることが求められている現在、事前に学校の教育方針について理解を促したり、事後に結果を報告したりする役割を学校ホームページが担っていく必要がある。また、閲覧者が知りたいときに、主体的に情報を取り出すことができるという、学校だより等の他の広報手段とは異なる特徴を持っている。コンピュータが得意でない教職員が、ホームページを作成するには労力を要する。ホームページづくり自体は目的ではなく、情報を伝える手段なので、できるだけ少ない労力で情報発信をできることが望ましい。2(2)ウに示したように、約3割の学校でホームページの閲覧者を把握せずに、情報発信を行っている現状がある。誰に対して何を伝えるのかをしっかりと検討した上で、掲載すべき情報を精査し焦点化する必要がある。保護者に対しても、ただ様子を伝えるというだけでなく、学校の取組への理解と協力を求めるという視点での情報発信が重要である。

(2) 自校ホームページの現状把握と改善のために

ア 診断シートへの記入

イ 必須項目の点検

学校の教育目標や、所在地、連絡

先など診断シートの「必」の欄に○のついた項目は、必ず掲載しておくべき項目である。これらの項目を掲

学校概要に関する内容				健康安全に関する内容			
	項目	ページ数	更新日		項目	ページ数	更新日
	校長挨拶				健康管理		
	○教育目標、方針、重点				出席停止		
	沿革				救急法		
	校章、校歌				教育相談		
	○所在地、地図、交通				給食		
	○連絡先、メールアドレス				○非常時の対応		
	児童・生徒数				気象情報		
	特色、施設紹介				安全指導		
	組織				安全マップ		
	教育課程				防災訓練		
	時程表						
	行事予定						
	学校要覧						
案内・各種手続きに関する内容							
	必 項 目	ページ数	更新日		必 項 目	ページ数	更新日
				案内	Q&A		
					お知らせ		
					新着情報		
					更新履歴		
					サイトマップ		
					リンク集		
					個人情報保護規定		
活動の様子に関する内容							
	必 項 目	ページ数	更新日		各 種 手 続		
特 色	あいさつ運動				授業科		
あ る	ボランティア活動				証明書		
	地域活動				学芸(転入学)		
	事業関係						
取 組	トライやる・ウィーク						
	いきいき学校応援団						
	インターナショナル						

図 10 自校ホームページ診断シートの一部

載していなかったり、古い誤った情報を掲載していたりする場合には、早急に対応が必要である。

ウ 有効期限切れの項目の点検

更新日が古いページであっても、内容が現状と合致していれば、掲載していても問題はない。逆に、既に実施済みの行事の予告や、締切りの過ぎた募集案内などは、更新日が新しくとも、掲載を続けることは好ましくない。有効期限の切れたページがないかどうかを洗い出し、不要なものを早急に削除する必要がある。

エ 掲載内容のバランスの検討

重要性が高いと学校が考える内容に重点を置いてページが構成されていることが望ましい。診断シートに記載されている項目の中で、積極的に伝えるべき項目と余裕があれば伝えればよい程度の項目を精査し、各項目に使用されているページ数と重要度のバランスがとれているかを検討する。

(3) 効率的な運用体制づくりのために

ア 運用体制を視野に入れたページ構成の検討

2(2)イ・オで述べたように、約半数の学校が1人の担当者だけで学校ホームページの運営を行っており、負担の集中や引継ぎの困難さなどの問題が発生している。組織的に運営を行う体制への移行が必要であるが、複数の教職員で分業するにはいくつかの方法が考えられ、各学校の状況に応じた方法を選択する必要がある。

最も分業しやすく効果が得られやすい項目は、図6の「活動の様子」に分類した項目であり、「活動の様子」の項目の運用体制を中心に、改善策を検討するのが効果的であるとする。

この項目のページ構成の方法には、次の3つの方法が考えられる。

(ア) 学年単位でページを構成する方法

各学年がホームページ作成を分担して、学年単位でページを構成する方法は、小学校を中心に多くの学校で採用されている。この方法には、分担しやすいという利点はあるが、同じ学校の中でも、詳細な情報を掲載している学年と、ほとんど情報を掲載していない学年のばらつきが生じやすいという欠点もある。各学年に、簡単なページであれば作成できる教職員がいる場合には、有効なページ構成の方法であるといえる。

(イ) 学期や月単位でページを構成する方法

学期や月単位で構成する方法は、更新頻度をコントロールしやすく、統一されたページ構成になりやすいものの、作られたページは時系列に構成されるため、内容からは探しにくいという欠点がある。また、ホームページ担当者に負担が集中することが多い。

(ウ) 行事単位でページを構成する方法

運動会や修学旅行といった大きな行事単位で構成する方法は、校種によらず多くの学校で採用されている。全体の構成をあまり考えなくとも作りやすいという利点はあるが、作られたページが更新されずに残るという状況に陥りやすい。

こうした特徴をふまえ、学校の状況に応じた分業の方法を考慮し、ページ構成の方法を検討する。同じ部署が担当する内容を、ひとつのまとまりとなるようにページ構成すると、効率よく分業することが可能になる。ホームページの作成を分業することが技術的な面から難しい場合には、ワープロソフト等を用いた原稿作成と決裁までを分担し、それをホームページの形式に加工して公開する作業のみをホームページ担当者が受け持つことで、組織的な運営が可能になると考える。

学校が積極的に公開する情報を精選し、そのために誰が何を担当するのが最も効率がよいかを検討することが重要である。

イ 無理のない更新頻度や使用技術の設定

更新頻度は高いにこしたことはないが、ホームページ作りに多大な労力を費やし他の教育活動に支障を及ぼしてまで、更新頻度を高めなければならないものでもない。古くなって現状と合致しない情報を残さないことと、閲覧者に再び見に訪れようという意欲を持たせることの2点を目標として、無理のない更新頻度を設定すべきである。担当者が変わったときに維持できないほど頻繁な更新を設定することは、避けること

が望ましい。

県内の多くの学校が掲載しているにもかかわらず、前述の全国小学校ホームページコンテスト(J-KIDS大賞)の選考基準において、あまり得点の高くない項目のひとつに校歌があげられる。また、デザインの優劣に関しては、わかりやすいかどうかは重視されているものの、技術を駆使しているかどうかは選考基準には含まれておらず、学校ホームページには見栄えの良さは求められていないこともわかる。ホームページのBGMとして校歌を流したり、自動的に絵が変化したりすることに優先的に取り組もうとする担当者も多いが、自己満足的な要素が多く、閲覧者にとっては必要性の低い項目と考えられる。それよりも、学校が伝えるべきものは何かということに軸足を置くことが重要である。

開かれた学校づくりの観点でホームページの運用方法の改善を検討する場合には、情報教育等でホームページによる情報発信自体を目的とする場合とは異なり、誰でもが無理なく情報発信を行える体制にすることが望ましい。

おわりに

学校ホームページに求められているのは、漠然と学校の様子を伝えることではなく、教育目標の達成のために必要な情報をねらいをもって伝えることである。そのためには、誰に何を伝えるかの目的を明確にした情報発信をしていく必要がある。情報発信を効率よく行っていくためには、各学校の状況に対応した無理のない体制で組織的にホームページを運用していくことが重要である。また、CMSやBlogを利用した、双方向コミュニケーションの活用についても、今後の研究課題である。

来年度以降、本研究において作成したチェックシートを、当所の「学校ホームページを活用した情報発信講座」や「コンピュータ活用基礎講座(訪問研修)」で活用することにより、県内の学校が開かれた学校づくりのために学校ホームページを改善するため支援を行いつつ、改善方策の検証を行う予定である。

注)

- 1) 豊福晋平「オンラインデータベースを利用した学校ホームページ群の客観的評価その3」『日本教育情報学会第20回大会論文集』,2004
- 2) 「J-KIDS大賞2007 選考基準」<http://www.j-kids.org/selection/pdf/matrix.pdf>
- 3) 豊福晋平「学校からの情報提供の充実に関する調査研究」『文部科学省学校評価事業ブロック別協議会資料』,2007

<参考文献>

- ・市川尚、鈴木克明「日本における小・中・高等学校WWWホームページの調査研究 - 黎明期における実態の把握と発信内容の分析 - 」『日本教育工学会誌』,1999
- ・豊福晋平「オンラインデータベースを利用した学校ホームページ群の客観的評価」『日本教育情報学会第18回大会論文集』,2002
- ・豊福晋平「オンラインデータベースを利用した学校ホームページ群の客観的評価その2」『日本教育情報学会第19回大会論文集』,2003
- ・豊福晋平「悉皆調査およびアンケートからみる小学校ホームページの運用状況」『情報処理学会研究大会論文集』,2004
- ・「J-KIDS大賞2006選考評定マニュアル」 http://www.i-learn.jp/misc/jkids/jkids06_manual.pdf